

特別企画決定の経緯

戦後すぐに発足した白山史学会は本年七〇周年を迎えた。この節目の年に何か記念になる企画ができないか、との提案が常任委員の一部からなされた。例年白山史学会大会は、会員が自らの研究テーマに基づいて行う報告と、東洋大学史学科の教員がやはり自らのテーマに基づいて行う講演とに加え、学外から研究者をお招きしての講演が行われてきた。自らの研究に基づく発信と、外部の成果からの積極的な学修という二つの要素からなるこの形式は、学問研究という観点からも、歴史学という学問の性格からも極めて適切なものであり、今後も大会の基本的な要素となっていくものである。

上記の点を考慮して今回の特別企画では、会員の研究報告と学外の研究者の講演という要素を活かしつつ、両者が共同して白山史学会から発信することを目指すことになった。即ち一定のテーマに基づいた基調講演と会員の研究報告に、講演者と報告者による座談会を加え、講演者と報告者が共同してその研究成果を問おうとするものである。

今回は分野を日本史に設定し、近年急速に研究が進んだ織田信長ないし織田政権というテーマを選びたい。従来織田政権の研究では信長個人の人物像が大きな要素を占めてきたという経緯から、何よりも「織田信長像」を取り上げる必要がある、との認識により「織田信長像再考」とのテーマにした次第である。